3 月 12 日（日）第二礼拝

「ヒゼキヤの祈りを聞かれた神様」Ⅱ列王記 19 章 20 節

北イスラエルが滅ぼされた後、アッシリアはユダを攻撃し、エルサレムはまもなく陥落するという国家存亡の危機にありました。その時、“神様がヒゼキヤの祈りを聞いた”と、預言者イザヤに神様からの言葉がありました。そして、神様はその言葉通りユダを救い守ってくださいました。祈りはとても重要です。神様が祈りを聞いてくださるというのは、神様の素晴らしい働きです。

神様がイスラエルをエジプトから救い出して後、イスラエルは神様と契約関係に入りました。神様はイスラエルを選び、結婚し愛し合う関係となりました(シナイ山での契約)。

一度神様と契約を結び神様を信じた後、偶像崇拝をしてしまうならとても危険です。ソロモンは外国の女性達をめとり偶像崇拝に傾きました。その子レハブアムの時代に、国は二つに分裂し、北イスラエルと南ユダとなります。北イスラエルでは、ダンとベテルに金の子牛をつくって民に拝ませました。また、オムリの時代に、アハブはバアルの祭司の娘イゼベルと結婚し、バアル崇拝が国にはびこりました。神様は預言者を送り何度も悔い改めに導きましたが、神様の声に聞き従わず、BC721 年に北イスラエルは滅ぼされてしまいます。

一方、南ユダのヒゼキヤ王は、国から高き所を取り除き、全ての偶像を処分するという宗教改革を行います(Ⅱ列王記 18：4-)。ヒゼキヤは主に硬くすがって離れず主に信頼し、数々の戦いで勝利を収め、アッシリアに仕えませんでした。しかし、アッシリアの王がユダの町々を攻めた後、将軍ラブシャケやセナケリブ王による脅しや神への冒涜に、ヒゼキヤは苦しい状況に陥ります。

ヒゼキヤは主の宮に入り神様に祈りました(Ⅱ列王記 19：15-20)。祈りとは、主の御名があがめられることです。主を愛する心で、主を賛美することが祈りです。ダビデは詩篇 2:10.11 のような祈りをしました。地上の全ての王たちが悟り、恐れつつ喜びをもって主に仕えるようにと。“心を尽くし”とは主を愛すること・喜ぶことです。“精神をつくし”とは主を深く知りたいという知識欲、“力を尽くし”とは決断をもって主を愛することです。祈りとは簡単に言うと、主と口づけすること、主と交わることです。イエス様が私達の罪の身代わりになってくださった恵みをそのまま受け取ることです。

主はご自身のために、主に口づけしたダビデのためにエルサレムを救われました(19:33-35)。主の使いが敵陣を打ち殺し、ユダが数十年苦しんだ問題が一日で解決されました。どんな問題であっても、イエス様に口づけし愛することで解決します。神と人とが愛し合う関係を持つことが重要です。

「子どもたちよ。偶像を警戒しなさい。(Ⅰヨハネ 5:21)」とあります。子どもたちとは主と契約（婚約）した者のことです。私たちは神の神殿、聖霊の宮です。人や鉄、銅の偶像を拝んではいけません。偶像崇拝は悪霊との交わりです。主が求めておられるのは真実の愛です。主が私達に対して、心を尽くし、力を尽くし、精神を尽くして愛してくださったように、私達もその愛に答えて心を尽くし、力を尽くし、精神を尽くして主を愛していきましょう。アーメン！